特集3 狭山市交通安全作品が決まりました

11月17日、第11回交通安全フェアを開催

ポスターの部

宇多 祥子さん（入間川小6年）

▲大会宣言をする寺門慶佑くんと東野佑三子さん

狭山市交通安全対策協議会では、11月17日(日)、狭山市民総合体育館で「第11回狭山市交通安全フェア」を開催しました。

これに先駆け、狭山市交通安全作品を募集したところ、約3千200点の応募があり、厳正な審査の結果、入賞作品が決定され、表彰が行われました。

これから紹介する作品は、それぞれの部門で最優秀賞に選ばれたものです。ぜひ、ご家庭でも交通安全について話し合ってみてください。

俳句の部

黄の旗を手に短日の通学路

館野 良民さん（水野）

▲ポスターの部

作文の部

急いでいる時こそ…「あっ!!危ない」

山畑 絵美さん（水富小6年）

心に強く言い聞かせました。

家に帰ってから、テレビをつけてみると、ニュースで子供のとび出しと、車の確認が不十分で起きてしまった事故のことが放送されていました。「私がもし、がけっぷちから一歩ふみ出してしまったら…!?」と思うと、小さな油断が大きな事故へとつながっていたかもしれないと自分を反省させられました。曲がり角はおたがいの姿は見えません。いつも相手に一歩ゆずれるくらいのゆとりがなくては、一つの事故を防ぐことは出来ません。それどころか増えていくばかりです。事故を起こすということは、誰かの心にブレーキがかからず、それが原因で起こす事が多いのではないでしょうか。心のゆるみがあれば、それが自分にはね返ってくるのです。本当の事故のこわさを知っていれば、二度とあやまちは起こしません。一人一人が注意していれば、危険からのがれることだってできます。時間は流れ続けているのですから誰にも決して止める事は出来ません。人々の喜びを一瞬にしてうばってしまう事故でも、あなたの手で救えることだってあるのです。これから私は、この体験をきっかけに、事故にあう前に気づけるようになりたいとつくづく思いました。みんなで進めていける交通安全を考えていきたいです。一度事故が起きてしまったら、うばってしまった物をとりもどすわけにはいきません。相手の気持ちになって考えてみると、その時の立場がよくわかりました。

今、私が望む事は目で見て、耳で聞いて体で感じとる交通安全です。

私は、思わず声をあげてしまうほど、突然におそってきたこの出来事におどろきました。

それは、私が少しでも早く、塾に行こうとした気持ちがこの事故へとつなげてしまったのです。その時は、もう塾の時間が少し過ぎていたので、あわてて家をとび出して、左右を確認せず、道に自転車ことたおれてしまいました。相手の方も急いでいたらしく、びっくりしていた様子でした。私は、あわてて「すみません。」とあやまりました。相手の人は、声は出しませんでしたが、おじぎをしてすぐ行ってしまいました。けがはなくて良かったけれど、心にきずができたような気持ちになりました。

塾が終わった時には、あたりがうす暗くなっていました。そして、塾に行く前にあった事故がまだ頭に残っていました。あの時は、まわりが明るかったけれど、今は暗く、自転車のライトなしではとても事故をおこしやすい道です。塾から帰る時には、左右をきちんと目で確かめました。耳だけではまわりの様子はわかりませんが目と、責任を持った自分の行動をするように心がければ、一つでも事故は防げるのです。そう自分の

12月15日(日)～1月3日(金)

年末年始の交通事故防止運動

重点目標

①飲酒運転など無謀運転の追放
②自転車の安全な乗り方の徹底
③シートベルトの正しい着用の徹底

狭山市の人身事故発生件数(10月末現在)

	本年	前年	前年比
人身事故件数	698	645	＋53
死者数	5	9	△4
傷者数	858	776	＋82

多発都道府県死者数(10月末現在)

順位	都道府県	本年	前年比
1	北海道	479	－42
2	兵庫県	402	＋13
3	千葉県	366	－ 8
4	愛知県	342	－60
5	大阪府	338	－52
6	埼玉県	329	－34
7	茨城県	321	－13
8	東京都	312	－29
9	静岡県	298	＋14
10	福岡県	292	－18

年末年始は、交通量の増加やあわただしさなどから交通事故の多発が懸念されます。また、この時期は飲酒の機会が多くなりますが、社会的責任を自覚し、お酒を飲んだら、自動車などの運転は絶対にやめましょう。

「自分だけは事故に遭わない」という例外意識を持たずに「自分も事故に遭うかもしれない」という気持ちを常に持つことが必要です。交通事故は、決して他人事ではありません。自分や家族が事故の当事者にならないという保証はないのです。

狭山市内では、今年の1月から10月末日までに5名の尊い命が交通事故によって奪われています。また、人身事故による負傷者は昨年同時期に比べ、約11%増加しています。

例外意識からくる「気のゆるみ」や「甘え」が交通事故の発生要因となっていることは否めません。ドライバーに限らず、バイク、自転車、歩行者など交通社会に属するすべての人々に「例外」はないのです。

みなさん一人ひとりが、交通ルールとマナーを遵守し、危険予測することが交通事故防止の最も有効な策といえます。

「みんなで進める交通安全」を実践していきましょう。

各部門最優秀賞

スローガンの部

高橋 邦明くん（狭山台南小4年）

元気でただいま言えるよう いつも心に青信号

問い合わせ
交通防災課へ内線223